

## 平成 30 年度 京都市歴史資料館 評議委員会議

日 時 平成 31 年 3 月 12 日(火) 15:30 開会

会 場 同志社 新島会館 2 階 貴賓室

次 第 開会

平成 30 年度事業報告説明

平成 31 年度事業計画説明

歴史資料館運営予算について

その他

## 京都市歴史資料館 評議委員会議 配布資料

- 資料1 京都市歴史資料館評議委員名簿  
京都市歴史資料館評議委員会議開催要綱
  
- 資料2 平成30年度事業報告（利用状況添付）
  
- 資料3 平成31年度事業計画
  
- 資料4 京都市歴史資料館歳入・歳出予算・決算額推移表
  
- 資料5 平成29年度京都市歴史資料館評議委員会議議事録

# 京都市歴史資料館評議委員名簿

平成30年4月1日現在

氏名	役職等	専門分野	備考
荒木 かおり	有限会社川面美術研究所 代表取締役所長	文化財保存修復	
上原 恵美	京都橘大学 名誉教授	文化政策	
片山 真理子	東京芸術大学 美術学部附属古美術研究施設 非常勤講師	朝鮮美術史	
鈴木 久男	京都産業大学 文化学部 教授	歴史考古学	
田端 泰子	京都橘大学 名誉教授	日本中世史・女性史	
野口 実	京都女子大学 名誉教授	日本中世史	
藤野 正弘	市民公募		

(敬称略, 50音順)

## 京都市歴史資料館評議委員会議開催要綱

(平成25年11月15日決定)

(趣旨)

第1条 京都市歴史資料館の展示、講座、調査研究その他の業務について、専門的な見地及び市民の立場から幅広く意見を求めることを目的として、京都市歴史資料館評議委員会議（以下「会議」という。）を開催する。

(委員)

第2条 会議に参加する委員は、学識経験のある者その他市長が適当と認める者のうちから、市長が依頼する。

2 前項の規定により依頼する委員の人数は、7人以内とする。

(任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会議の招集)

第4条 会議は、歴史資料館長（以下「館長」という。）が招集する。

(補則)

第5条 この要綱に定めるもののほか、会議の開催に関し必要な事項は、館長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、決定の日から施行する。

(経過措置)

2 平成27年3月24日までの間、会議の委員の人数は、第2条第2項の規定にかかわらず、10人とする。

3 この要綱の施行の際現に京都市歴史資料館評議員規則に基づく京都市歴史資料館

評議員である者は、この要綱の施行の日（以下「施行日」という。）に会議の委員として依頼されたものとみなす。この場合において、その依頼されたものとみなされる者の任期は、第3条第1項本文の規定にかかわらず、施行日における京都市歴史資料館評議員としての任期の残任期間とする。

# 平成30年度事業報告

## 1 展示

- (1) 特別展 叢書京都の史料刊行記念「久多荘中世村落のすがた」  
会期 平成30年4月20日(金)～6月26日(火)  
内容 左京区最北端の久多に残されてきた、鎌倉時代以降の村落行政や生活史などに関する古文書や信仰に関する祭具などから、中世の村落形態と人々の生活文化を紹介しました。  
来館 3,243人
- (2) 特別展「明治150年 京都、写真の時代」  
会期 平成30年6月29日(金)～9月12日(火)  
内容 日本伝来前から昭和戦前期頃までの写真画像、写真機本体、写真師などを通して、幕末から明治期にかけて理化学の先進地であった京都と写真の交わりについて紹介しました。  
来館 3,948人
- (3) 企画展「京都市の文化財 - 新指定の文化財と明治の建物 -」  
会期 平成30年9月21日(金)～10月30日(火)  
内容 京都の文化や歴史を知るうえで欠くことのできない重要な文化財を指定・登録している、京都市指定・登録文化財のうち、平成20年度から23年度に指定された絵画・工芸品・古文書や明治期に建築された建造物をパネルで紹介しました。  
来館 2,253人
- (4) 特別展「京都をよみがえらせた名望家たち」  
会期 平成30年11月2日(金)～平成31年2月5日(火)  
内容 「京都市参事会」の文書や浜岡光哲、田中源太郎、堤弥兵衛関係資料を通して、明治維新後、衰退の危機にあった京都を再生へと導いた「名望家」と呼ばれる市民の軌跡を紹介しました。  
来館 5,469人
- (5) 企画展 「和本のひろがり」  
会期 平成31年2月8日(金)～4月23日(火)  
内容 文字を読み書きできる階層が拡大し、読者の需要に応じて様々な分野の書物が、盛んに製作されるようになった江戸時代の書物をめぐる諸相を紹介しています。  
来館 1,194人(平成31年2月末時点)
- (6) スポット展示  
ア 「宮武外骨の『繪葉書世界』」  
会期 平成30年5月2日(水)～6月19日(火)  
内容 明治から昭和にかけて、政治や社会に対する痛烈な批判を展開したジャーナリスト、編集者の宮武外骨が発行した絵はがきを紹介しました。  
来館 2,259人  
イ 「大久保利通の手紙 - 揺れる京都と維新官僚」

会期 平成30年11月28日(水)～平成31年1月18日(金)  
内容 明治政府の樹立に大きな役割を果たした大久保利通から、第二代京都府知事榎村正直に宛てられた書簡を紹介しました。  
来館 2,662人

ウ 「京都に光秀がやってきた」

会期 平成31年2月13日(水)～3月20日(水)  
内容 建仁寺塔頭の両足院に残されてきた饅頭屋町文書から、明智光秀が京都の民政に深く関わっていたことがわかる資料を紹介しています。  
来館 911人(平成31年2月末時点)

## 2 講座

### (1) 歴史講座

ア 史料叢書刊行記念シンポジウム「久多，はるかなる中世から現代まで」

期日 平成30年6月2日(土)13時30分～ 会場 左京区役所1階大会議室  
基調講演 久多，はるかなる中世から現代まで  
講師 野地秀俊(京都市歴史資料館)  
パネルディスカッション  
中世から現代までの「久多」について，住民の視点から意見交換  
パネリスト 岡田芳治氏(久多自治振興会長)  
奥出一順氏(久多農家民宿店主)  
野地秀俊(京都市歴史資料館)

受講者 81人

イ 「京都への写真の伝来」

期日 平成30年8月22日(水)14時～ 会場 職員会館かもがわ  
講師 中川馨氏(摂南大学講師) 受講者 61人

ウ 「志士・官僚と名望家たちの明治維新」

期日 平成30年12月5日(水)18時30分～ 会場 歴史資料館1階展示室  
講師 秋元せき(京都市歴史資料館) 受講者 46人

エ 「和本から見た江戸時代」

期日 平成31年3月20日(水)18時30分～ 会場 歴史資料館1階展示室  
講師 松中博(京都市歴史資料館) 申込 人

オ 連続歴史講座

(ア) 激動の明治と京都の元勳

・「西郷隆盛と京都」

期日 平成30年7月7日(土)14時～ 会場 清水寺  
講師 家近良樹(大阪経済大学特別招聘教授) 受講者 荒天中止

・「西郷隆盛と京都」※

期日 平成30年11月24日(土)11時～ 会場 同志社新島会館  
講師 家近良樹氏(大阪経済大学特別招聘教授) 受講者 129人

- ・「山県有朋と明治天皇 - 明治の精神と無鄰菴」  
期日 平成30年7月14日(土)14時～ 会場 国際交流開会館  
講師 伊藤之雄氏(京都大学名誉教授) 受講者 69人
- ・「山県有朋と明治天皇」※  
期日 平成31年1月26日(土)14時～ 会場 同志社新島会館  
講師 伊藤之雄氏(京都大学名誉教授) 受講者 75人
- ・「創造する破壊者岩倉具視 - 新国家を構想した公家政治家」  
期日 平成30年8月4日(土)14時～ 会場 岩倉具視幽棲旧宅  
講師 鈴木栄樹氏(京都薬科大学教授) 受講者 31人
- ・「創造する破壊者岩倉具視」※  
期日 平成31年1月26日(土)11時～ 会場 同志社新島会館  
講師 鈴木栄樹氏(京都薬科大学教授) 受講者 78人

(イ) 明治京都の開拓者たち

- ・「鳩居堂三代の明治維新 - 京都町衆の生活と意見」  
期日 平成30年11月10日(土)14時～ 会場 ウィングス京都  
講師 小林丈広氏(同志社大学教授) 受講者 76人
- ・「京都学習院と稲波誠 - お公家さんの先生になった京北弓削の郷土」※  
期日 平成30年11月17日(土)14時～ 会場 京都御苑閑院宮邸跡  
講師 佐竹朋子氏(公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会学芸員)  
受講者 68人
- ・「第三代京都府知事北垣国道はどんな人物であったのか」※  
期日 平成30年11月24日(土)14時～ 会場 同志社新島会館  
講師 高久嶺之介氏(同志社大学名誉教授・京都橘大学名誉教授)  
受講者 137人
- ・「明治維新と富岡鉄斎 - 画家・学者として皇室・名所の復興」  
期日 平成30年12月1日(土)14時～ 会場 平安神宮記念殿ホール  
講師 高木浩志氏(京都大学教授) 受講者 102人  
※京都歴史文化施設クラスター実行委員会事業として実施

(2) 連続講座「古文書を楽しく読もう！」

ア 春期講座 毎週木曜日・計4回

期日 平成30年5月17日～6月7日

幕末の京都ニュースを読む 13時～14時30分

岩倉具視の手紙を読む 15時～16時30分

会場 同志社新島会館 講師 吉住恭子, 松中博

受講者 幕末の京都ニュースを読む 43人, 岩倉具視の手紙を読む 44人

イ 秋期講座 毎週水曜日・計4回

期日 平成30年10月17日～11月7日

古文書をはじめよう 13時～14時30分

山村で暮らす人々の文書を読む 15時～16時30分



会場 同志社新島会館 講師 野地秀俊, 井上幸治

受講者 古文書をはじめよう 45人, 山村で暮らす人々の文書を読む 45人

(3) 夏休み親子歴史教室 親子で、わかりやすく学ぶ「京都五山送り火の歴史」

期日 平成30年8月16日(木) 10時～正午

会場 職員会館かもがわ 講師 野地秀俊

対象 小学校4・5・6年生児童とその保護者 受講者 36人

(4) 京都アスニー・アスニー山科協力講座

ア 学びのフォーラム山科

女房装束による美の演出 ～打出・ヒトからモノへ～

期日 平成30年4月18日(水)

場所 山科アスニー 講師 吉住恭子

イ アスニー京都学講座

「創設期『京都市』の自治と歴史意識」

期日 平成30年10月27日(土)

場所 京都アスニー 講師 秋元せき

### 3 資料の調査・収集・整理・保管・研究

京都の歴史に関する研究センターとしての役割を担うため、京都市域の歴史に関する古文書などの調査・収集に、大学等の外部研究機関とも連携して進め、収集資料の整理・保管・研究を行っています。

(1) 京都歴史文化施設クラスター実行委員会事業（あらゆる人々が参加できるプログラムの開発事業）への参画

地域の文化財の魅力発信、地域振興など、美術館・歴史博物館を中核とした関係機関との連携による文化クラスター創出に向けた取組を支援する文化庁の補助事業を活用した「京都歴史文化施設クラスター実行委員会」に参画し、京都市歴史資料館が行う「歴史講座」の障害者向け映像DVD、視覚障害者向けの音声DAISY(CD)等の製作を進めた。

(2) 京都造形芸術大学伊達研究室による当館収蔵民具の整理事業

平成29年度に続き秦家寄託「太子山奇応丸製作用具」の整理・調査を実施。

### 4 歴史的公文書の調査・指定

歴史的公文書の調査及び指定、保管を行っています。

### 5 資料の供用・普及

収集・撮影した古文書などの資料及び所蔵する図書の公開を進めています。また市民の方からの歴史に関する相談に対応しています。

### 6 研究紀要の刊行

『京都市歴史資料館紀要』第28号を刊行しました。

## 7 史料管理システムの整備

調査・収集した古文書に関する情報管理のため、史料管理システムの整備を進めています。資料館のホームページで一部公開し、これまでに撮影した古文書の写真帳台帳（一覧リスト）及び古文書の解説などの情報も更新しています。

## 8 情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」の運営

京都市内にある歴史的資源の情報を、情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」として、インターネットで発信しています。項目の追加・修正を中心に、サイトの運営を行っています。

平成30年度は、行財政局サービス事業推進室の協力により、石碑等の確認作業を進めている。

## 9 博物館実習生の受入等

京都市内の各大学からの要請を受け、博物館実習生を受け入れ、館員の指導による実習を実施しました。（期間：平成30年8月21日（火）～25日（土）、受講者8人）

また、御所東小学校で行われた「上京の子どもまつり」（主催上京区役所等）に際し、まつり会場での資料館の紹介及び資料館東側通路の臨時開放を行いました。

## 歴史資料館 ホームページアクセス数 年度推移

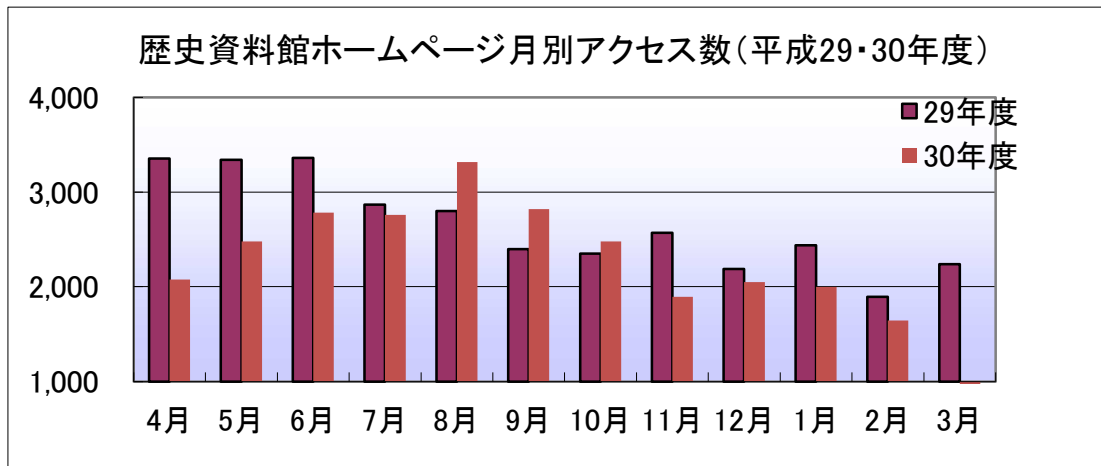
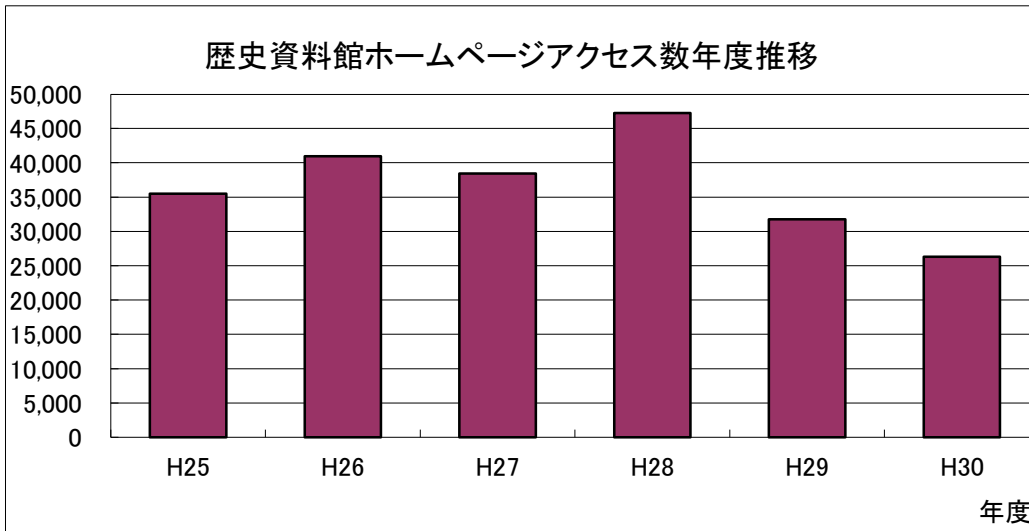
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30
4月	2,920	2,940	3,663	4,081	3,352	2,076
5月	3,310	2,810	3,302	4,731	3,340	2,479
6月	2,919	2,923	2,876	4,019	3,360	2,782
7月	3,452	3,276	3,094	4,517	2,866	2,758
8月	4,431	4,396	3,177	4,558	2,798	3,316
9月	3,215	3,418	3,579	4,151	2,398	2,819
10月	2,886	3,407	3,508	3,819	2,350	2,477
11月	2,547	3,391	3,425	3,945	2,569	1,894
12月	2,207	3,001	2,859	3,282	2,186	2,049
1月	2,450	3,790	2,735	3,998	2,436	1,997
2月	2,421	3,560	2,765	2,999	1,892	1,644
3月	2,752	4,047	3,441	3,131	2,237	
計	35,510	40,959	38,424	47,231	31,784	26,291
月平均	2,959	3,413	3,202	3,936	2,649	2,390
前年比		1.153	0.938	1.229	0.673	

(参考)

京都市情報館ホームページ作成支援システムアクセスカウント

年度	トップページ	1日当たり
27	40,731	111
28	53,478	147
29	69,874	191
30	75,936	227

(注) 広報担当集約数値のトップページのページビュー数の合計



# 平成 31 年度事業計画

## 1 展示

### (1) テーマ展 「京の古今をめぐる」 - 京都市歴史資料館名品展 I -

会期 平成 31 年 4 月 26 日 (金) ～7 月 23 日 (火)

内容 昭和 57 年 (1982) の開館以来収集・保存してきた古文書・美術工芸品・民俗資料等の中から、京都の歴史・文化について理解を深めていただける逸品を展示する。

### (2) 京都市の文化財

#### ①「彩る」連携展示 (仮称)

会期 2019 年 7 月 26 日～8 月 27 日 (予定)

内容 平成 23 年度に「京都を彩る建物や庭園」の制度が創設され選定物件が 400 件を超えた機会に、これまでの成果、今後の保護の取組の周知等を図るため、選定・認定物件を紹介する。

#### ②ICOM 京都大会「京都市の文化財展」(仮称)

会期 2019 年 8 月 30 日～10 月 20 日 (予定)

内容 ICOM の大会期間に合わせ、新たに指定・登録した文化財をはじめ、これまでに指定登録されたものの、いまだ公開されていない文化財を、パネルでの展示を含めて紹介し、文化財の保存・活用についての周知をも図る。

### (3) 上京と下京 - 都市の成り立ちと町衆 - (仮称)

会期 2019 年 10 月 25 日～2020 年 2 月中旬 (予定)

内容 “上京区・下京区” は、中世以来の「上京」「下京」の名称を引き継いで、明治 12 年 (1879) に新たな行政区画として誕生した。本展示では、上京区・下京区 140 周年を記念し、明治期の琵琶湖疏水事業を担った上下京連合区会の関係文書などから、都市京都の成り立ちと町衆による自治の歴史をたどる。

### (4) 「明智光秀」関連企画 (仮称)

会期 2020 年 2 月中旬～4 月中旬 (予定)

内容 京都市考古資料館と連携し、NHK 大河ドラマで取り上げられる明智光秀の京都での事績等を紹介する。

### (5) スポット展示

館蔵品の中から近年収集したもの、指定品・登録品など史的価値の高いもの、時宜に適したもの、市民の関心の高いものなどを選んで、通常の展示とは異なる視点で紹介していきます。

## 2 講座

### (1) 歴史講座

ア 上京と下京 - 都市の成り立ちと町衆 - (仮称) 関連講座

期日 未定 当館 1 階展示室

講師 秋元せき

イ 京都市の文化財（仮称）関連講座 ※文化財保護課と共同開催

期日 未定 当館1階展示室

講師 未定（文化財保護課職員）

ウ 「明智光秀」関連企画関連講座

期日 未定 当館1階展示室

講師 井上幸治

※展示の内容により、展示解説を充実させることとしています。

(3) 連続講座「古文書を楽しく読もう！」

ア 春期コース 毎週木曜日・計4回

期日 2019年5月16日～6月6日（予定）

・入門編 13時～14時30分

・中級編 15時～16時30分

会場 同志社新島会館 講師：野地，井上

イ 秋期コース 毎週水曜日・計4回

期日 2019年10月30日～11月20日（予定）

・入門編 13時～14時30分

・応用編 15時～16時30分

会場 同志社新島会館 講師：歴史資料館員

(4) 夏休み親子歴史教室「むかしの地図を見てみよう」（仮称）

期日 2019年8月上・中旬 場所 未定

講師 歴史資料館員

対象 小学校4・5・6年生児童とその保護者

(5) 京都アスニー・アスニー山科協力講座

ア アスニー学びのフォーラム山科

期日 平成31年4月17日（水）

講師 吉住恭子

イ アスニー京都学講座

期日 2020年2月22日（土）

講師 井上幸治

### 3 資料の調査・収集・整理・保存・研究

京都の歴史に関する研究センターとしての役割を担うため、大学等の関係機関と連携し、京都市域の歴史に関する古文書などの調査・収集に取り組みます。

\* 地域活性化のための特色ある文化財調査・活用事業(文化庁助成事業)を活用した「京都市内個人所有古文書調査」を実施予定。

### 4 歴史的公文書の調査・指定

歴史的公文書の調査及び指定を行います。

## 5 資料の供用・普及

収集・撮影した古文書などの資料及び所蔵する図書の整理・公開を進めます。また市民の方からの歴史に関する相談に対応します。

## 6 「叢書 京都の史料」の編集

歴史資料館の古文書調査の成果をもとに、史料集の刊行を行います。2019年度は、第16回配本「刷物絵集成（仮称）」を刊行します。

## 7 史料管理システムの整備

調査・収集した古文書に関する情報管理のため、これまでに収集し、調査・撮影した古文書の写真帳台帳及び古文書の解説などの情報を整備・更新します。

## 8 情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」の運営

京都市内にある歴史的資源の情報を、情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」として、インターネットで発信しています。項目の追加・修正を中心に、サイト運営を行います。平成30年度に引き続き、石碑等の確認を進めます。

## 9 博物館実習生等の受入

京都市内の各大学からの要請を受け、博物館実習生を受け入れ、館員の指導による実習を実施します。

・博物館実習 2019年8月20日～24日（予定）

## 10 資料の活用等についての検討

収蔵資料活用のための整理とともに、収蔵スペースの狭隘化への対応として、一部資料の学校空き教室を活用した一時保管等を進めるとともに、施設のあり方についての検討を進めます。

京都市歴史資料館 歳入・歳出 予算・決算額 推移表

[歳出]

(単位：千円)

		31年度		30年度		29年度		28年度		27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算
管理運営	小計	15,944		21,555		18,191	14,173	22,558	18,568	16,147	14,352
	一般経費	13,844		14,555		14,991	13,804	15,758	13,851	14,347	12,902
	特別経費	2,100		7,000		3,200	369	6,800	4,717	1,800	1,450
	備考	I COM京都大会 連携京都市の文化 財展(仮称)		明治150年記念事業 「いま明治を考える プロジェクト」		鴨川・高瀬川地域の 歴史遺産継承・活用		岩倉具視関係資料の修 復, 鴨川・高瀬川地域 の歴史遺産継承・活用		ゲート設置 フィルム修復	
								史料叢 書刊行	小計	848	841
									一般経費	178	190
									特別経費	670	651
									備考	印刷費	
									市政史 編さん	小計	
										一般経費	
										特別経費	
										備考	
計		15,944		21,555		18,191	14,173	22,558	18,568	16,995	15,193

[歳入] (決算額)

		31年度		30年度		29年度		28年度		27年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算
刊行書籍販売		502		502		502	298	502	461	924	730
資料コピー料金		300		300		300	270	300	349	300	246
古文書講座受講料		384		384		384	366	384	330	384	346
補助金等				3,500		3,200	369	3,800	1,733	-	-
				明治150年記念事業		鴨川・高瀬川地域の 歴史遺産継承・活用		鴨川・高瀬川地域の 歴史遺産継承・活用			
計		1,186		4,686	0	4,386	1,303	4,986	2,873	1,608	1,322

## 平成 29 年度 京都市歴史資料館評議委員会議 議事録

- 1 日 時 平成 30 年 3 月 7 日(火) 午後 3 時～4 時 50 分
- 2 会 場 同志社 新島会館 別館 2 階 貴賓室
- 3 出席者 評議委員：荒木かおり，上原恵美，片山真理子，鈴木久男，野口実，藤野正弘  
京 都 市：文化市民局文化芸術都市推進室 土橋担当部長，文化財保護課中川課長，  
歴史資料館 井上館長，宮崎次長，村上担当係長 他

4 欠席者 田端委員

5 傍聴者 なし

### 6 議事運営

#### (1) 開会

京都市市民参加推進条例第 7 条により本会議及び議事録等について公開することを説明。

#### (2) 開会あいさつ

#### (3) 出席委員，出席者紹介。

#### (4) 平成 29 年度事業報告説明（資料 2 参照）

平成 29 年度は，特別展「岩倉具視の生きた時代（大政奉還 150 周年記念プロジェクト）」，テーマ展「京・地域のくらし 2 大原—生活と信仰—」，同「燈心文庫にみる室町時代の諸相」，同「江戸時代の京都ニュース—続・大塚コレクション展—」，企画展「鷹山ふたたび—祇園祭鷹山復興支援展—」，スポット展示として「福王寺神社の志士と狛犬」「明治 33 年 釈迦真骨の奉迎行列」「朝鮮通信使行列図」「黎明期のカメラマン堀内信重」「五榜の掲示 京都に残された高札」「桂女のすがた」を開催したことについて報告。各展示にちなんだ歴史講座をはじめ、フィールドワーク「大原の古道を歩く」、古文書講座（春 4 回・秋 4 回）、夏休み親子歴史講座を開催し、国庫補助事業としてシンポジウム「今村家文書の魅力」・歴史ウォーク「むかしの柳原庄を歩く」、その他アスニー京都学講座等を実施したことを報告。また、3 月の『叢書京都の史料 15 久多荘文書』の刊行、『京都市歴史資料館紀要』第 28 号の 6 月刊行予定について報告。この他、資料の調査・収集・整理・保管・研究、普及事業、歴史的公文書の調査・指定、博物館実習生の受け入れ、フィールドミュージアム京都の運営等のほか、中学生チャレンジ体験の受け入れなどについて報告。

歴史資料館の利用及びホームページアクセスの状況については、来館者数が、今年 2 月末までの合計で約 18,000 人程と、昨年同時期に比べ 11.2%，資料閲覧は昨年比 16.8%，歴史相談も 13.8% 減少していること、ホームページアクセス数は、さらに減少しており、今後もっと多くの方にアクセスしていただける取組みが必要と考えていることについて報告。

#### (5) 質疑

[評議委員] ホームページアクセス数等は減っているが、講座の参加者の数の増減は。

[市・資料館] 古文書講座は定員 48 名で募集しているが、多い組には 60 名程の応募があり、お断りしている状況がある。本日開催の歴史講座も、定員 50 名に対し 95 名の応募があり、2 回実施し全員参加していただけるようにした。

[評議委員] それなら、必ずしも、歴史ばなれということではないのですね。わざわざ足を運んで参



加される方がたくさんおられるというのは、ちょっと胸をなでおろしました。ホームページはなぜそんなにアクセスが少なくなっているんですか。

[市・資料館] 歴史資料館のホームページは、京都市のホームページ「京都市情報館」の中にあり、事業の概要を紹介するくらいしかできていない。他の博物館・資料館にあるような、ビジュアルな見栄えのするホームページにはなっていない。予算的に厳しい状況でできていない。

[評議委員] 京都市のホームページから入らないとアクセスできないんですか？

[市・資料館] 京都市のホームページの中であって、わかりにくいということです。

[評議委員] (タブレットを開き) 歴史資料館のホームページ、たしかに地味ですね。

[評議委員] 来館者数等について報告がありましたが、歴史資料館は何を目指しておられるのか。動物園なら、来園者数が増えればよいということだと思いますが、歴史資料館の場合には、ただ大勢の人が訪れたらいいのではなくて、わかった人に来ていただきたいということなのか、そのあたりのところを教えていただきたい。

[市・資料館] これまで全く関心がなかった方についても、まずは歴史資料館という施設があるということを知っていただき、展示や講座などに来ていただき、京都の歴史・文化や歴史資料の大切さについて、もっと知りたいと思っていただけるような施設にしていかなければならない。研究での利用者など専門的な内容と併せて、両方が大事だと思って取り組んでいる。

[評議委員] 市民の目線でいえば、こんな施設があると思って、ふらっと入ってみても、映像展示室の映像はすごく古びていて、現代の若者は、鮮明な画像に見慣れているから、たぶん二度と来ようという気にはならないと思う。中国や韓国からの観光客が多いなか、「京都の歴史」は、外国と日本との関係を良くするうえでもすごくアピールするものがあると思う。来館者を増やす取組みでいえば、外国語の表示をもっと増やすということも進める必要があるのでは。あまり観光観光というのはいかがかと思うが、観光部局等と連携して予算がとれるような状況を作ること考えてもいいのではないかな。もっと、歴史資料館自体を知ってもらうようにしないといけない。

[評議委員] ホームページのはなしをしたい。京都市傘下の博物館でも、京都市考古資料館や学校歴史博物館は独自のホームページを作っていて、何度も訪れたいようなサイトになっている。これに対して、歴史資料館のホームページは非常に無味乾燥で、必要最小限の情報は載っているが、画像などはほとんどない。ホームページは非常に重要なツールになっているので、歴史資料館の負担ではなく、ホームページを作る京都市としての取組ができれば、もっと利用者に歴史資料館の魅力が伝わるものになっていくのではないかな。

ホームページのアクセス数が減ってしまったのは、他の博物館との見比べも影響しているのではないかな。同じ京都市傘下の施設でも、学校歴史博物館や考古資料館ではできているのに、歴史資料館だけが京都市のホームページの中でしか作れないというのは、何か理由があるのかな？

[市・資料館] 学校歴史博物館では、博物館向けの国庫補助の予算をとって、外国語のコンテンツを充実したりしている。

[市・資料館] 考古資料館の場合は指定管理者制度で財団が運営していて、そこがホームページを作っ

ている。歴史資料館は市の直営なので、外部サイトが作れないし、自由にはできないところがある。予算要求はしているが認められていない状況。

[評議委員] 学校歴史博物館も直営ではないのか。

[評議委員] 学校歴史博物館も市、教育委員会直営。学校歴史博物館の場合、守備範囲は学校の歴史で、歴史資料館の場合は、平安以前からの京都の歴史で、規模的にも内容的にもすごいと思うが、学校歴史博物館のほうが情報発信力は優れている。ホームページも同様で、プライオリティを一番に持ってきたら出来ることであり、何を目指しているかによって違ってくる。

[市・資料館] 歴史資料館が今後どうあるべきかについては、いま検討を重ねている。歴史資料館では長年進めていた市史編さん・市政史編さん事業が終わり、そこからどう脱皮をしていくのか、また、展示などをどうするのかなど、今後の設計をしている段階だ。

[市・資料館] 京都御所や迎賓館への観光客にも足を運んでもらうことや、外国人向けの表記を増やしていくなどを含め、今後どのように進めていくか、課題とし検討したい。

#### (6) 平成 30 年度事業計画説明 (資料 3 参照)

展示については、特別展「叢書京都の史料刊行記念 久多荘—中世村落のすがた—」, 同「明治の面影—京の写真師たち— (仮)」, 同「京都をよみがえらせた名望家たち (仮)」, 企画展「文化財展 (仮)」, 同「和本のひろがり (仮)」を予定しており、「スポット展示」として、新収資料や新指定品、時宜に適したもの、市民の関心の高いものなどを選んで紹介する予定を報告。歴史講座は、叢書京都の史料刊行記念シンポジウム「久多荘—中世村落のすがた— (仮)」を左京区役所と連携して実施するほか、展示と連動した歴史講座として、同「明治の面影—京の写真師たち— (仮)」, 同「京都をよみがえらせた名望家たち (仮)」, 企画展「文化財展 (仮)」, 同「和本のひろがり (仮)」, また、「明治 150 年」事業の取り組みとして、「激動の明治と京都の元勳」全 3 回、「明治京都の開拓者たち」全 4 回の講座の開催のほか、古文書講座を春・秋に各 4 回、夏休み親子歴史講座、アスニー協力講座などを予定していることを報告。また、基本となる資料調査・収集・整理・研究、インターネットによる資料や情報の公開、歴史的公文書の調査・指定などの経常業務を進めるほか、収蔵スペースの狭隘化への対応として、一部の資料について学校空き教室を活用した一時的保管などを含め、施設のあり方についての検討を進めることなどを報告。

#### (7) 歴史資料館運営予算について (資料 4 参照)

平成 30 年度予算について、歴史資料館の管理運営については、館自体の維持管理費や例年の展示などの実施事業に係る費用のとしての一般経費と特別経費 700 万円 (明治 150 年記念事業「いま明治を考えるプロジェクト」) があり、700 万円の 2 分の 1 について国庫補助が得られる見込みであること等を報告。

#### (8) 質疑応答

[評議委員] 計画では、近世・近代に比重が大きくて、古代・中世の比重が少ないのではないかと。關東等の自治体であればわかるが、京都では平安の貴族の日記など、そういうところは今回は見送るという方針か。それから、京都市以外の政令指定都市の歴史博物館などはどのくらいの予算規模なのか、把握されているのか。京都市歴史資料館が「京都市歴史博物館」

のような大きな歴史博物館になる計画が1990年代にだめになり、そのままになっているという状況を考えた場合、京都市で「京都の歴史」を市民、観光客の方に還元していく空間としては京都市歴史資料館しかない、と私は考えている。他都市のデータがあれば教えてほしい。

[市・資料館] 京都市には歴史資料館以外にも考古資料館などがあり、他都市の施設とは性格が異なるということもあり、比較のデータについては詳しくは把握していない。

[評議委員] 他の自治体の場合には、色々努力して博物館を作ったりしている。京都の場合には、歴史でめしを食べているのに、核になる博物館が何もないという現状がある。予算の問題になると思うが、もっと頑張ってもらってほしい。それから、地域の小さなテーマでやっているのは、そういう方針なのか。

[市・資料館] 差し迫った課題として、京都市内の町や個人宅が古文書等の歴史資料を維持できなくなってきたり、その歴史資料の救済 - 資料を調査して、整理・保存する、歴史資料館に受け入れた資料を活用していくということが、重要な業務になっている。展示や講座もそういった地域の歴史資料をいかに伝えていくか、そういう課題の中で考えている。

[評議委員] それはよくわかる。ただ、「お客さんが入らない」という問題と矛盾するわけで、来館者を増やしたいのであれば、展示をもっと工夫する努力がいる。大学との連携もぜひ進めていただきたらと思う。

[評議委員] 歳入・歳出には、人件費は入っているのか。

[市・資料館] 人件費は除いている。

[藤野委員] 人件費を除いて約1,500万円規模ということかと思うが、これは少ない。他の主要都市あるいは他のモデルとなるようなところと比較したら、きっと少ないと思う。京都の人は、よその都市に負けるのをすごく嫌うので、こういう材料も使って、予算を獲得して欲しい。

[評議委員] 京都市の他の博物館はどの程度の運営予算か。

[市・資料館] 考古資料館は運営予算約2,600万円で、財団法人京都市埋蔵文化財研究所に委託している。

[評議委員] 考古資料館もそんなに大きな予算ではないですね。そういわれてみると、京都の歴史を通史的にみられる博物館というのは、ないですよ。

[評議委員] ない。京都は歴史を売りにしているんだから、文化庁が京都に来るのを機に予算をつけてもらえないか。

[市・資料館] 他都市との比較の話も出ていますが、確かに、京都市の展示施設や収蔵施設は圧倒的に少なく、博物館構想もお蔵入りしている。たくさんのお意見をいただき、応援していただいているが、私たちが今やらなければならないのは、歴史資料館や考古資料館を利用したい人を増やして、もっと市民的な理解の裾野を広げ、京都市の文化施設がこれでは足りないではないかという機運を盛り上げていかないといけないと考えている。

[評議委員] ほぼ40年ほど二条城の事業に携わっているが、二条城はこの1～2年で劇的に変化した。冷暖房もなく、トイレも汚いというのが、ずっと変わらないように思えたが、観光としての位置づけと、外部からの声があって、大きく変わった。何か突破口が必要かなと思う。

それから、こども向けの取り組みというのも大事で、二条城で修理のアトリエに「京都こども大使」たちが見学に来られて、すごく興味をもって聞いてくれた。歴史資料館でも、こども向けにも興味をもたれるような取り組みをしていってほしい。

[評議委員] まず地元の御所東小学校などの受け入れなどを検討されてはどうか。

[市・資料館] ありがとうございます。こども向けには、例年の小学生対象の夏休み親子歴史教室に加えて、今年度は中学生のチャレンジ体験も受け入れている。他にもできることからやっていきたい。

[評議委員] 歴史資料館の施設については、望むべくもないと思うが、アスニーや考古資料館あるいは二条城とコラボし、展示来館者を増やすという方法しかないと思う。ここは京都御所に近く、立地はいいが、展示室も展示しにくくジレンマがあると思うが、色んなところとコラボして打って出ていくのも、一つの方法だと思う。京都市が明治150年事業をやるにしても、歴史資料館を抜きにして語れないと思う。考古資料館や二条城では果たせない役割があるので、そういう京都市の外郭団体とうまく連携すれば、もっと活力がでるのではないか。

それから、歴史資料館のベーシックな活動はやはり外せないと思う。古文書の調査や講座、地域の文化・歴史を取り上げた展示やら、地味なものだが、やめたら叩かれるし、やったらやったで何でこんな暗いもん…と言われるし。皆さんが折角いいことをやっているのに、来館者数のグラフは右肩下がり。ぜひ、歴史資料館が打って出ることをお勧めしたい。

[評議委員] こちらで企画して、市の関係施設と連携して展示をする、そういうことができたらいいと思う。

[評議委員] 二条城はあれだけ部屋があるから、その一角を貸してもらい歴史資料館をアピールしたらいい。歴史資料館の皆さんが、折角専門的な知識をもってやっているのに、すごくもったいない。

[市・資料館] 明治150年事業は、総合企画局が中心になり、歴史資料館が協力をしている。当館の職員が講師などで協力しているし、二条城の整備事業にも協力している。

[評議委員] 協力する条件として、監修 歴史資料館というようなクレジットをつけてもらおうとかすればいい。

[市・資料館] 今後、御意見を参考に工夫していきたい。

[評議委員] 平成29年度の予算が400万円ほど余っているように見えるが、これは使えなかったのか。

[市・資料館] これは国庫補助を見込んで予算を計上したが、国庫補助が想定より減額になったので、執行できなかったものです。

[評議委員] ホームページでの発信ということも、もっと心がけていただきたい。

[市・資料館] 今後、歴史資料館がどうかたちであるべきなのか、しっかりと考える必要があるということについて、御意見をいただきました。いますぐにできることと、大きな計画の中で進めていくことがあるが、今日の評議委員会の御意見をふまえて、しっかりと考えていきたい。

(9) 閉会あいさつ

本日は、長い時間にわたり、貴重なご意見・ご提言をいただき、ありがとうございました。歴史資料館は、市政史の編さん事業が終わって、文化市民局の移管し、考古資料館と歴史資料館の両館で連携している部分もある。どちらも施設が古く、収蔵スペースも足りなくなっている。歴史資料館というものを市民の方にしっかりと伝えていき、大きいものを作れることを最大目標にしながら頑張っていきたい。引き続き皆様からのご支援とご協力をお願いしたい。本日はどうもありがとうございました。